

(別 紙)

スマート農業の実現による競争力強化の加速を求める意見書（案）

農林水産業や食品産業の現場では、依然として人手に頼る作業や熟練者でなければできない作業が多く、省力化、人手の確保、負担の軽減が大きな課題となっている。例えば、機械化が難しいとされ、手作業でなければできない危険な作業や、きつい作業が残されていたり、選果や弁当の製造・盛り付けなど多くの雇用労力に頼っているが、労働力の確保が困難であったり、1人当たりの作業面積の拡大といった点に改善が期待されている。

こうした状況を打破するため、国は2022年度までに、さまざまな現場で導入可能なスマート農業技術が開発され、農業者のスマート農業に関する相談体制が整うなど、スマート農業の本格的な現場実装を着実に進める環境を整えるため、農業新技術の現場実装推進プログラムに即した取り組みを進めようとしている。これにより、農業現場が抱える農業従事者の減少や農業の生産性の向上といった課題に対応することが期待されるが、それぞれの施策が着実に現場において推進されなければならない。

そこで、農業新技術の現場実装推進プログラムが農業者だけでなく、企業・研究機関・行政機関などの関係者を巻き込んで推進できるよう、下記の事項に取り組むことを求める。

記

- 1 農業経営の将来像を示し、先進的な農業経営の姿を地元の生産条件を加味し、営農類型をよく把握した上で提示すること。
- 2 技術ごとのロードマップを示し、実証・市販化・普及を農業者が求める技術やサービスとして提示できるよう現場の意見を把握しながら推進すること。
- 3 技術実装は、失敗と成功の不断の努力が必要であり、KPIを把握しつつも、農業の特性に応じた中長期の実践を支援すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年 月 日
高松市議会

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
農林水産大臣

} 宛